

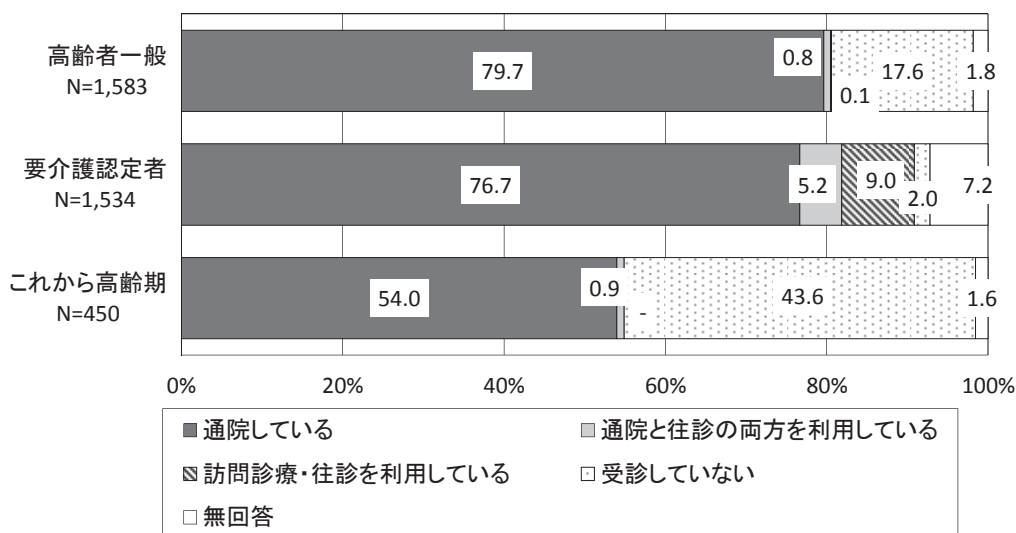
4 健康・介護予防

(1) 医療の受診状況

① 医療の受診形態

- 「通院している」「通院と往診の両方を利用している」「訪問診療・往診を利用している」と回答した“何らかの方法で医療を受診している”人は、高齢者一般で約8割、要介護認定者で約9割を占めている。
- 高齢者一般、要介護認定者ともに「通院している」が最も多く、高齢者一般が79.7%、要介護認定者が76.7%となっている。
- これから高齢期では、「通院している」が54.0%で最も多いが、「受診していない」も43.6%となっている。

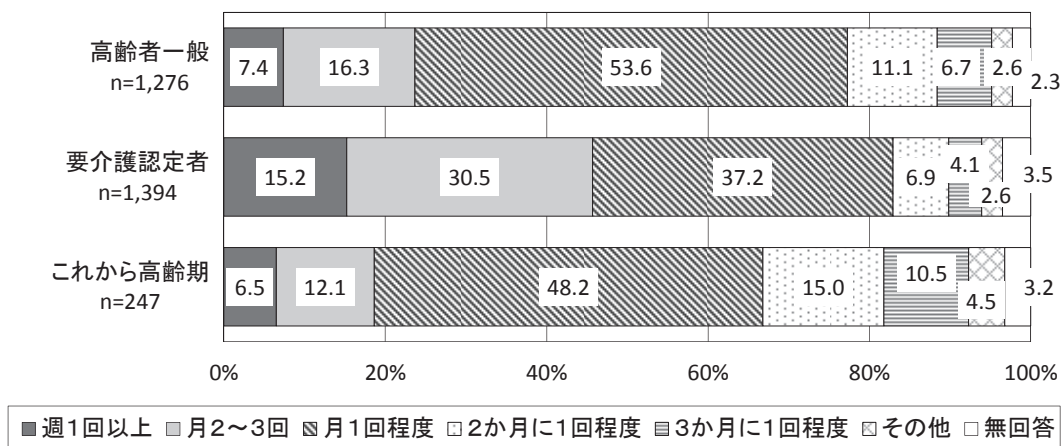
■医療の受診形態



② 医療機関の受診頻度

- “何らかの方法で医療を受診している”人の医療機関の受診頻度は、いずれの調査においても「月1回程度」が最も多く、「月2～3回」と回答した人も含めると、「月1～3回」が約6～7割を占めている。

■医療機関の受診頻度



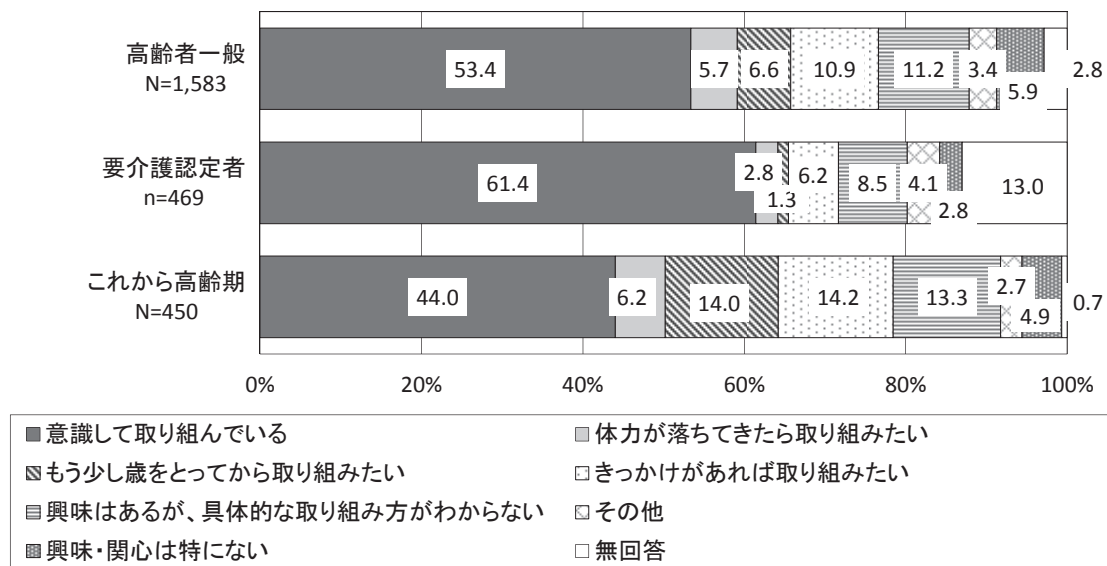
(2) 介護予防の取り組み

① 介護予防の取り組み状況

○いずれの調査においても「意識して取り組んでいる」が最も多く、4～6割を占めている。

○いずれの調査においても「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」が1割前後を占めており、また、「興味・関心は特にない」と回答した人が少なからずみられる。

■ 介護予防の取り組み状況

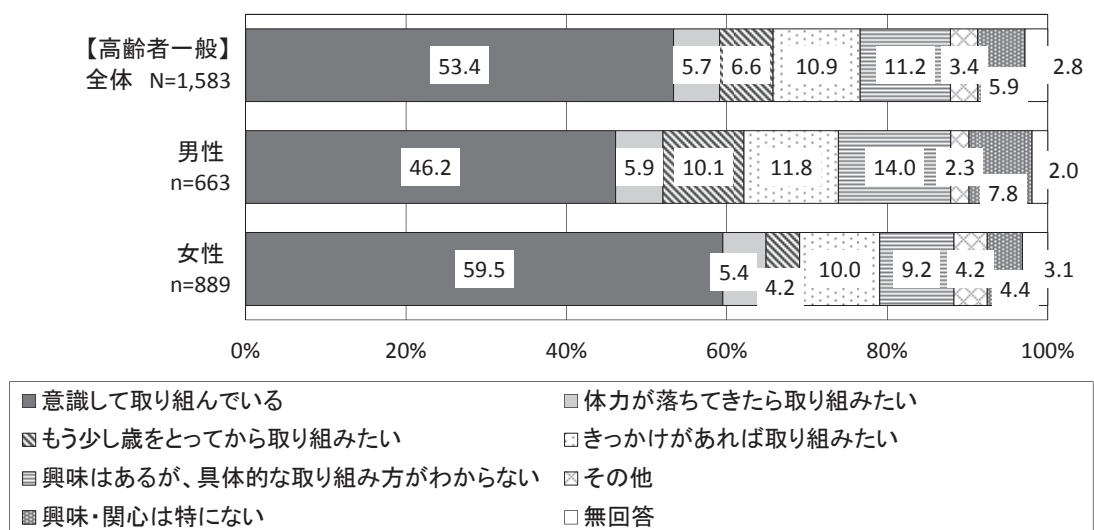


※ 要介護認定者は、要支援1・2の人を対象に聞いた

【高齢者一般】

○性別にみると、女性では「意識して取り組んでいる」が59.5%と約6割を占めており、男性(46.2%)よりも高くなっている。

■ 介護予防の取り組み状況<高齢者一般：性別>

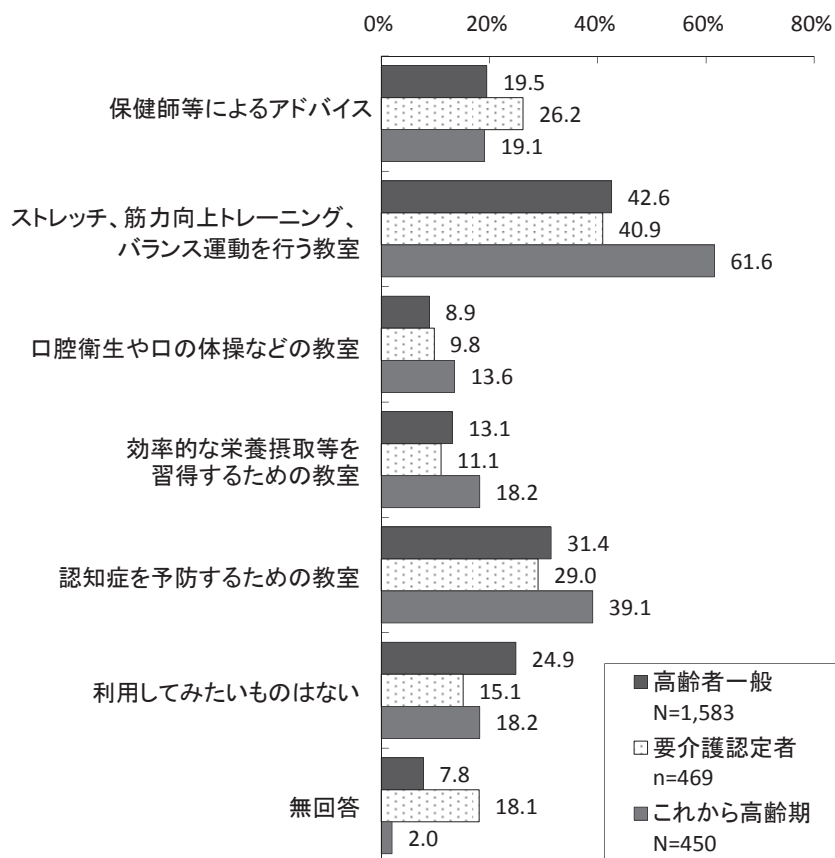


② 介護予防事業の利用意向

○いずれの調査においても「ストレッチ、筋力向上トレーニング、バランス運動を行う教室」が最も多く、次いで「認知症を予防するための教室」が続いている。

○いずれの調査においても、「利用してみたいものはない」がそれぞれ2割前後を占めている。

■介護予防事業の利用意向（複数回答）

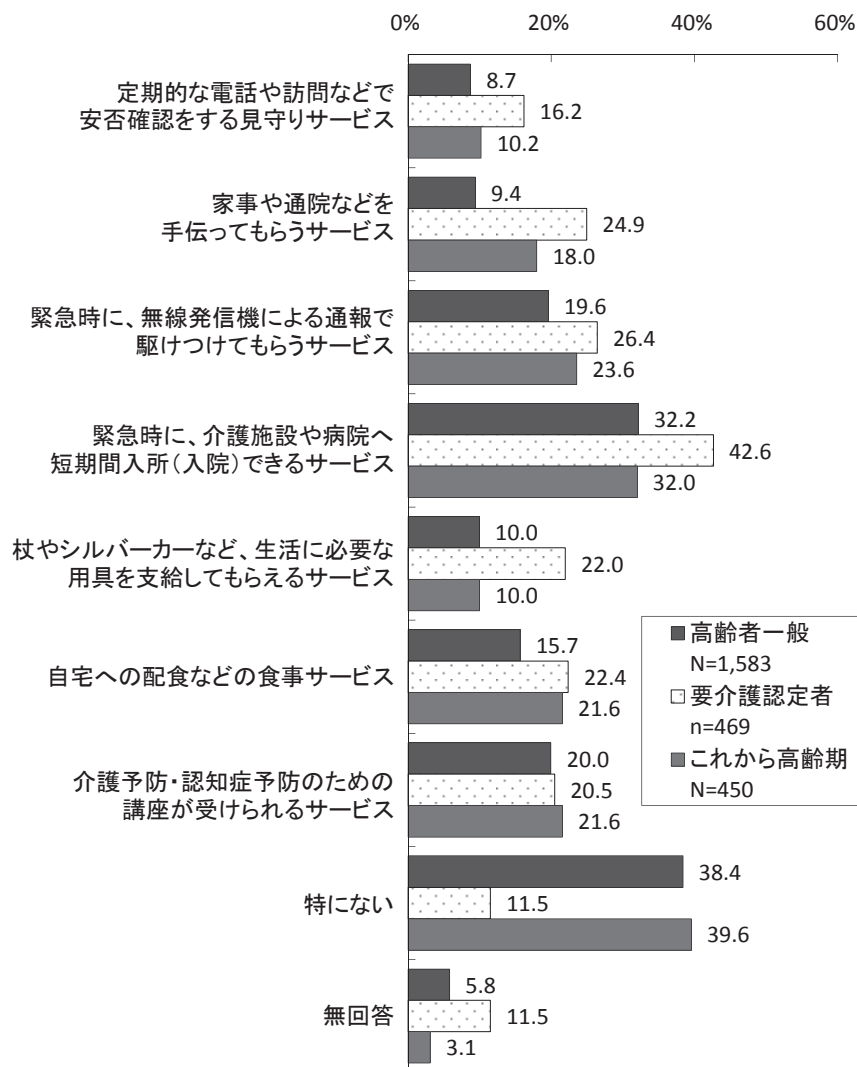


※ 要介護認定者は、要支援1・2の人を対象に聞いた

(3) 高齢者福祉サービスの利用意向

- 高齢者一般、これから高齢期では「特にない」が最も多く、約4割を占めている。
- 要介護認定者では、「緊急時に、介護施設や病院へ短期間入所(入院)できるサービス」が最も多く、次いで「緊急時に、無線発信機による通報で駆けつけてもらうサービス」が続いている。

■ 高齢者福祉サービスの利用意向 (複数回答)

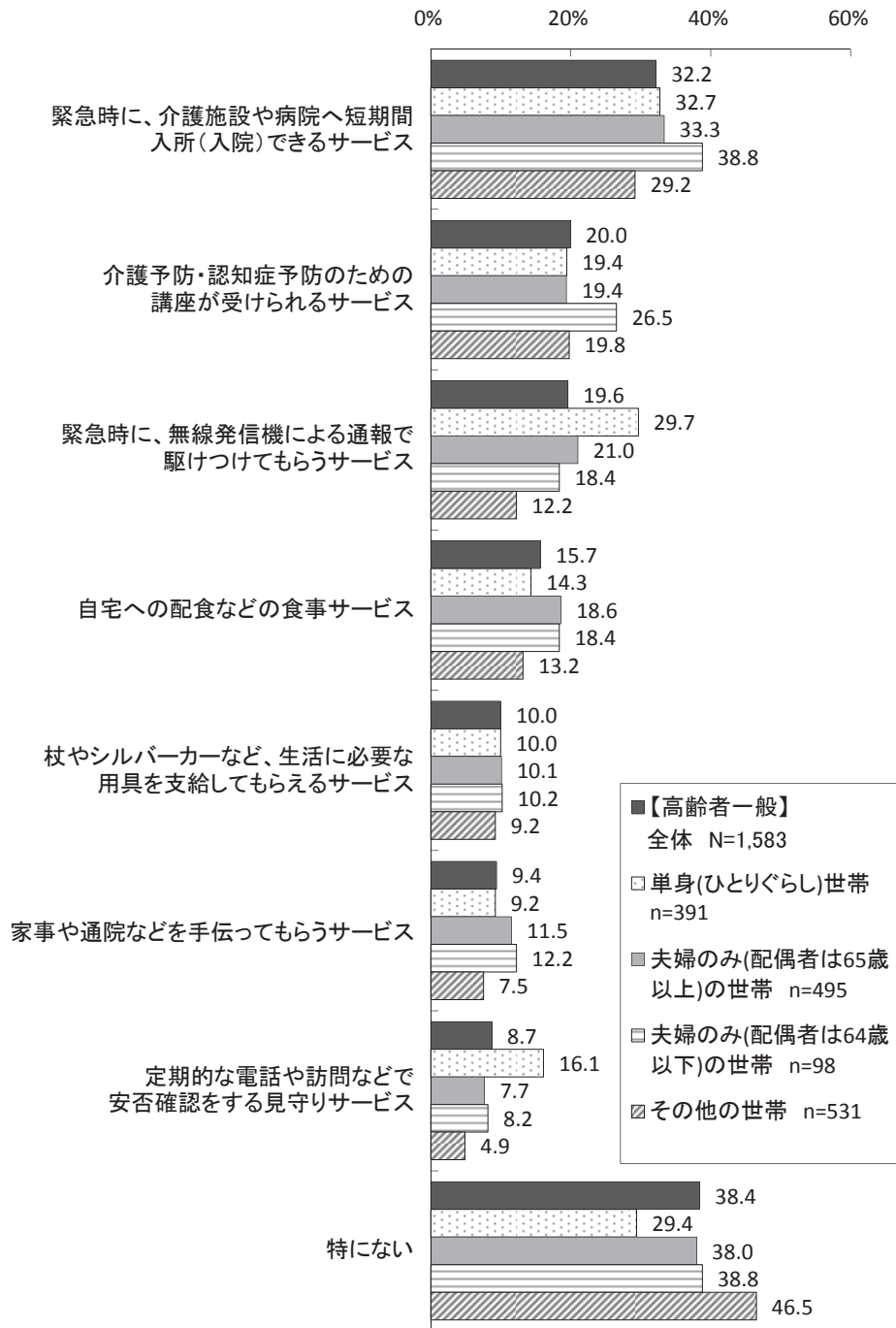


※ 要介護認定者は、要支援1・2の人を対象に聞いた

【高齢者一般】

- 世帯構成別にみると、他の世帯と比べて単身（ひとりぐらし）世帯では、「緊急時に、無線発信機による通報で駆けつけてもらうサービス」（29.7%）、「定期的な電話や訪問などで安否確認をする見守りサービス」（16.1%）をあげる人が多い。
- 他の世帯と比べて夫婦のみ（配偶者は64歳以下）の世帯では、「緊急時に、介護施設や病院へ短期間入所（入院）できるサービス」（38.8%）、「介護予防・認知症予防のための講座が受けられるサービス」（26.5%）が多くなっている。
- その他の世帯では「特にない」が最も多く46.5%となっている。

■高齢者福祉サービスの利用意向（複数回答）＜高齢者一般：世帯構成別＞

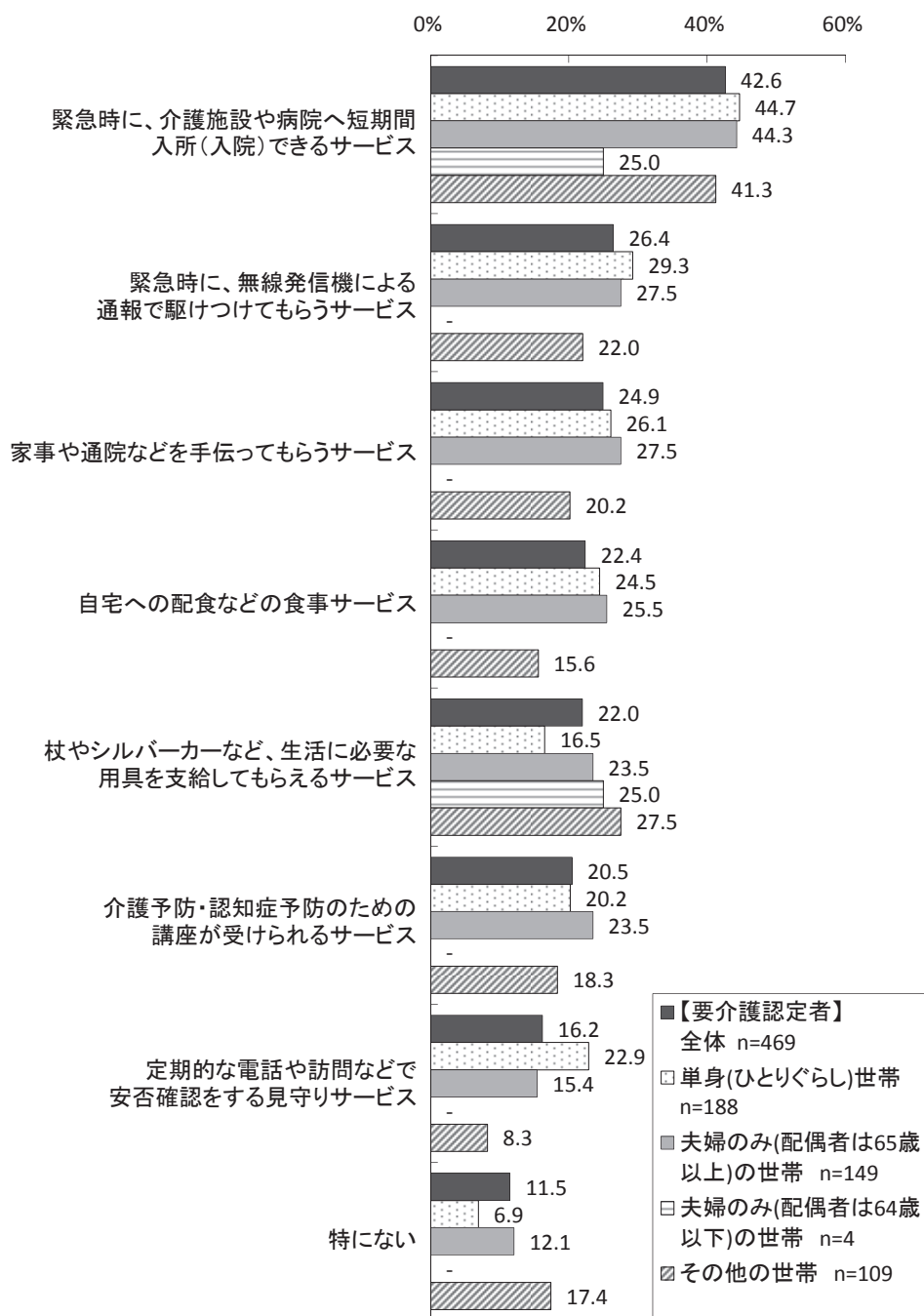


※ 無回答は省略

【要介護認定者】

○世帯構成別にみると、他の世帯と比べて単身（ひとり暮らし）世帯では、「定期的な電話や訪問などで安否確認をする見守りサービス」（22.9%）が多い。

■高齢者福祉サービスの利用意向（複数回答）＜要介護認定者：世帯構成別＞



※ 無回答は省略